

観光文化委員会



10月18日(月)広島市において、42名出席のもと、観光文化委員会を開催しました。

当日は、議事に先立ち、(株)ナル・デベロップメンツの岡共同代表からご講演いただいた後、観光文化委員会の2021年度事業計画の中間報告、政府等への要望の方向性について報告・審議を行い、原案どおり承認されました。ここでは、講演の概要を紹介します。

【講演要旨】

「Azumiをはじめとする 瀬戸田での取り組み」

(株)ナル・デベロップメンツ
共同代表 岡 雄大氏



■多様性のある場所を日本につくりたい

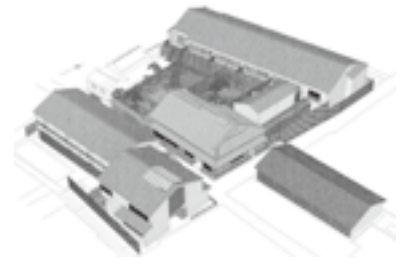
少年期から海外と日本での生活を経験する中で、多様性のある海外に比べ、日本が単一的な国に見えていた。こうした背景が、ホテル建設を通じて日本に多様性のある場所をつくりたいと考えるようになったきっかけである。不動産投資会社で経験を積む中、世界的なラグジュアリーリゾートとして名高いアマンの創業者であるエイドリアン・ゼッカ氏と出会った。アマンはホテル造成により自然環境を壊すのではなく、郷土料理や郷土品などの価値を磨くことで地域の魅力を高め、世界の富裕層のニーズに答えている。ゼッカ氏の薦めで、バリ島のアマンガリを視察した際、そこで働く地元住民が自信を持ち、幸せに生活している光景を目の当たりにした。日本でもこのような場所が必要だと感じ、本格的に建設候補地を探し始めるようになった。

■瀬戸田は世界を魅了する可能性

瀬戸田(広島県尾道市)にAzumiブランド第1号のホテル「Azumi瀬戸田」を建設したのは、この地が世界的ブランドとなっている「瀬戸内海」に位置する島であり、塩業で栄えていたかつての賑わい(しおまち商店街)を取り戻すことができれば、世界を魅了する可能性があると感じたから。

■目指すのは旅行者が「住みたいまち」

観光を通じた地域活性化のためには、いわゆる観光としての一時的なブームとして消費されるのではなく、地域の方々と



Azumi瀬戸田(2021年3月開業)

対話を重ねながら、その土地の日常が魅力で溢れ、地域の方々が将来にわたって「住みたいまち」であり続けることが重要と考えている。さらには旅行者がその日常に触れ、体感し、魅力に共感することで「住みたいまち」となることを目指している。瀬戸田の魅力向上に向けては、地元、行政や様々な関係事業者が同じ土俵で話し、協力し合える環境づくりに努めており、「しおまち商店街活性化プロジェクト」として、グリーンスローモビリティやクリーンエネルギーの導入、地域内の情報共有化のためのデジタル化などを進めているところ。

■ローカルとローカルが刺激し合う

まちづくりは、都市部から学ぶことが正解とは限らない。都市部から学ぶことは均質化につながる可能性もある。ローカルがローカルから学んで刺激し合い、成長していくことがこれからの観光に求められている。

(担当:島末)